

JAの預託育成により労働負担を低減し、規模拡大

(北海道)

- ・ 施設整備事業を活用して哺育育成センターを規模拡大。地域の酪農家は預託利用を拡大して労働力を低減し、地域全体で経営規模の拡大を推進。
- ・ 大規模農家は今後、搾乳ロボットを導入して省力化により規模拡大を進める。

現状と課題

施設整備事業の活用

今後の展望

S農協主体の地域内分業化の推進

分業化以外の省力化の取組の推進

外部支援組織(S農協)

ヘルパー事業

コントラクター事業

TMRセンター事業

哺育・育成事業

高齢化により労働負担が過重になる。

規模拡大に伴い追加労働力が必要。

中小規模経営

大規模経営

課題 更なる分業化には、哺育・育成事業のための施設が不足。

S農協
哺育・育成センター

H26補正で育成牛舎を整備
(預託頭数を拡大 371頭→644頭)

効果 地域内分業化の進展

様々な経営体が預託育成の利用を拡大し、労働負担を低減。

労働負担を軽減し、高齢農家も営農継続が可能に。

預託による空きスペース、労働力を搾乳作業・規模拡大に振り向け、規模拡大。

中小規模経営

大規模経営

先進的大規模酪農経営モデル

地域初

JAのサポート

搾乳ロボット

展望 先進的・省力的な大規模経営モデルの育成

1戸のモデル経営体がJAのサポートにより搾乳ロボットを導入し、省力的に規模拡大。

効果 地域全体への波及

搾乳ロボットを導入した経営体をモデルに、他の大規模経営体も省力化による規模拡大を実施。